

(様式2)

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1570600435 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 御幸会 | | |
| 事業所名 | グループホームしばた | | |
| 所在地 | 新発田市下中山246番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年2月10日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人新潟県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年3月30日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで、四季の移り変わりを感じながら、6名の少人数で家庭的な中で、一人ひとりがゆったりと暮らしており地域の一人として行事に参加したり、地元野菜直売所やお菓子工房を定期的に利用するなどより一層関わりが沢山出ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は長い間地域で医療を支えてきた医療法人であるが、急速に進む少子高齢化の中で社会貢献のため平成11年に社会福祉法人を設立し、平成13年には特別養護老人ホームに併設してグループホームを開設した。当初から定員6名と小規模で運営しており、小規模ならではのメリットを活かした柔軟な体制により、グループホーム本来の目的である「家庭の延長」が実現できている。また、事業所は、グループホームの役割と、終の棲家ではないことを十分に理解した中で、併設の特別養護老人ホームやグループ内の介護老人保健施設、病院とも連携し、利用者がどんな状態になっても安心してケアを受けられる体制を整えている。特に特別養護老人ホームとの連携は、緊急時や非常災害時の協力、夜間の助勤体制、研修会など多岐にわたり協力を得ている。

利用者と職員は本当の家族のようにお互いを思いやり、協力しながら生活している。昼食時には、利用者一人ひとりがそれぞれに役割を持って、準備や後片付け、調理に至るまで協働で行っており、そこには自主性を大切に利用者積極的に活動できるようにするための職員の配慮が見受けられた。

法人では、グループホームの職員は利用者との馴染みの関係を継続するために、なるべく入れ替わりがないように配慮している。また、制服着用もあえて義務付けず、私服にすることで家庭の一員であることを意識している。

「のんびり、ゆったり、自分らしく」という普遍的な理念を、日々実践している事業所である。

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域との関わりを大切にしながら日常の暮らしに利用者、職員ともに「のんびり、ゆったり」の気持ちを持ちながら、毎日のケアを実践している。 | 開設時から継続している理念は、グループホームが家庭の延長にあるものという思いから掲げているものである。明快で分かりやすいため常に職員の意識の中であり、日々のケアに十分活かされている。また、事あるごとに皆で振り返りも行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 市主催の春のクリーン大作戦、施設の夏祭り、春秋の神社のお祭りのほか、毎週日曜日に開かれる野菜直売所、お菓子工房の利用など地域の一員として、地区住民と交流している。 | 年に2回行われる施設の祭りには大勢の地域の方が来訪し、賑わいを見せている。ボランティアや保育園の園児の来訪も定期的にある。事業所からは地域のクリーン作戦への参加、野菜の直売所や喫茶店の利用などで地域と交流を深めている。日常的にも近所の方から野菜のおすそ分けなどがあり、気軽に立ち寄ってもらえている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 日常的に地域と交流している中で、自然な形で認知症の方への理解を得よう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では特養地域密着型と合同で実施し、事業所の行事やサービスの状況・評価の取り組み等を報告し、意見・情報交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。 | 会議は、地域密着型の小規模特養と合同で開催している。利用者6名の全家族に持ち回りで参加してもらい意見や要望を聞いている。会議に参加する利用者にはお茶出しをしてもらい、事業所での生活の一端を委員に見てもらおう機会としている。委員の意見により、皆で千羽鶴を作成し神社に奉納したこともある。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の介護相談員派遣事業を通じて、ホームの様子、実情を見ていただき、サービスの取り組みを伝えている。また、介護保険更新手続きの際、市の窓口に出向き、状況を伝えたり、相談したりして協力関係を図っている。 | 手続等で市の窓口に行き、担当者と顔を合わせて関係構築に努めている。また、生活保護の担当者も年に数回訪れているほか、定期的に来訪する介護相談員の貴重な意見を聞く機会もある。市の主催する認知症カフェには毎回出掛け、交流している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束」の勉強会を行い、理解を深めている。玄関の施錠は行わず、普段から利用者の行動を把握し、職員同士で声を掛け合い、さりげなく寄り添い、自由に過ごせるように努めている。 | マニュアルの整備と共に、定期的な研修も実施して身体拘束をしないケアについての職員の意識を高めている。玄関は日中、施錠はせず、利用者の出入りは見守りにより把握しており、利用者の行動を抑制することなく、職員が寄り添って対応している。 | |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 「高齢者虐待防止関連法」についての勉強会を行い。ホームでも日頃から職員同士で声を掛け合い、虐待のないケアが行われている。 | マニュアルの整備と共に、定期的な研修も実施し、自分たちのケアが虐待にあたらないか振り返りを行っている。日頃から職員同士は何でも言い合える関係にあり、ストレスの無い職場環境となっている。定期的に職員のストレスチェックも実施している。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業や成年後見人制度について勉強会を行い、知識を深めている。制度が必要な方についてはご家族と相談し、活用できるような支援を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結、解除の際はわかりやすく具体的な説明を行うとともに、一方的にならないよう、わからないことや不安に思うことを丁寧に説明を行い、理解、納得していただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族通信、面会時、電話連絡時などで、ホームでの様子をお伝えするとともに、意見や要望を伺っている。運営推進会議でも利用者や家族から意見や要望を伺い、運営に反映させている。 | 家族には面会時や、月に2回の定期受診の結果を連絡する際に意見や要望を聞くようにしている。利用者全員の家族が持ち回りで運営推進会議に参加しており、意見、要望を聴取する良い機会となっている。利用者からは、日々の生活の中で自然な聴き取りを心掛けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、職員全員で集まり、定例のミーティングを行い、意見や提案を出し合い、運営に反映させている。また日常の業務の中でも意見を出し合うようにして、より良い運営に繋げている。 | 職員同士の関係が良く、いつでも何でもざっくばらんに話しができる環境となっている。また、職員からの意見や要望については柔軟に反映できる体制が出来上がっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の疲労やストレスの要因などについて相談しやすい環境作りに努めている。勤務時間中でもゆっくり休憩できるような環境になっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 可能な限り全職員が内・外部研修を受講できるように配慮している。受講後は伝達講習を行い、職員全員で情報共有できるよう努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新発田市主催の研修会を通じて、他事業者と交流する機会があり、情報収集や情報交換を通じてサービスの質の向上に努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談で生活状態を把握するようにしている。また本人のお話に耳を傾け、心身の状態や思いに向き合い、安心して頂けるような関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の不安や思い、困っていることを十分お話頂き、どのような対応が可能か丁寧に説明し、次の段階への相談等につなげるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族の思いなど状況を把握し、必要としている支援を行えるよう努めている。場合によっては他の事業所サービスにつなげるなどの対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事などの作業を一緒に行いながら、本人とコミュニケーションをとるなど、暮らしを共にする関係を築いている。 | | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族通信等で日々の生活の様子や精神面での変化をお知らせしたり、こまめに連絡や相談することで家族と情報共有し、家族と共に本人を支えていく関係を築いている | 家族には、預り金の補充や季節ごとの衣類の入れ替えなどをお願いし、来訪してもらえる機会を作っている。家族と協力して、利用者が毎月1回は自宅にいるきょうだいと会えるように支援したり、趣味であるお茶を続けられるように茶道具を揃えてもらうなどしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 個々の馴染みの場所への外出支援を行っている。ゆかりの場所やお墓参りなどに職員同行で出かけ、関係が継続できるよう努めている。 | 個別の馴染みの場所や墓参りなど、職員が積極的に外出支援を行っている。家族と協力して定期的に自宅へきょうだいに会いに行くことを支援している利用者もいる。また、入居前からやっているお茶や生け花、習字などの趣味を、入居後も続けていけるように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 普段の生活や散歩・喫茶外出などの際に、一人ひとりが孤立しないように職員と一緒に会話に入り、利用者同士仲間意識を育む支援を行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス提供が終了した後も支援状況等の情報交換などを行い、継続した支援を行うように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中での言葉や表情、行動などから真意をくみ取り、一人ひとりの思いやご希望、意向などの把握に努めている。 | センター方式のアセスメントシートを活用して思いや意向の把握に努めている。新たに知り得た情報や変更した内容は、色を変えて追記していき、その時々を利用者の気持ちを把握している。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族からこれまでの暮らしや生活歴などお聞きしたり、日常会話の中から新たな情報を得たり把握に努めている。 | 本人や家族、サービス事業所などからの情報により、これまでの暮らしの把握に努めている。センター方式のアセスメントシートに情報を集約し、事業所での生活の中で知り得た内容をさらに追加していき、職員間で周知を図ってケアに活かしている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムを理解し、できないことよりできることに注目し、その人の全体の状況の把握に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々の関わりの中でご本人やご家族から思いやご意見ご要望をお聞きし、職員同士で情報交換を行い、共有したうえで、現状に即した介護計画を作成するように努めている。 | 利用者や家族の希望を確認し、会議の中で職員全員の意見を聞きながら利用者本位の介護計画が作られている。きょうだいとの面会を援助内容に位置づけたり、趣味のお茶、生け花、習字の支援など、個性に富んだ内容となっている。計画の実施状況は毎日確認表で達成度をチェックし、1ヶ月毎にモニタリングとして総括している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のファイルに身体状況及び日々の様子などを記録し、職員間で情報を共有している。その記録をもとに、実践や介護計画の見直しや評価に役立っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の日々変化する状況、その時々ニーズに応じて、職員の勤務体制を利用者サービスに合わせるような柔軟な対応に努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の美容院や喫茶店、地元野菜の直売所などを利用し、豊かな暮らしができるよう支援している。運営推進会議では地域の方や地域包括支援センターの職員も参加しており、意見交換を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力病院またはご本人・家族が希望するかかりつけ医に受診ができるよう支援している。ご家族にも付添をお願いする場合もある。職員が付き添ったときは、受診内容やご様子をご家族にお伝えしている。 | 受診の支援体制や利便性から、事業所の協力病院にかかりつけを変更する方がほとんどである。その他の専門科への受診については家族にお願いしている。協力病院への月2回の定期受診は職員の付き添いで行っており、病院との情報のやり取りはスムーズに行われている。受診結果は、家族に電話で報告している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調や些細な表情の変化を見逃さないよう日々努めている。毎月2回の定期受診のほか、体調の変化があった場合は協力病院に連絡し、助言、指示を仰ぎ、受診等の支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|--------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は職員がお見舞いに伺い、励ますようにしている。また、医療機関やご家族と、入院の様子や回復状況等の情報交換を行い、良好な関係作りに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所の際に、ご家族に対して重度化、終末期に関する説明を十分に行い、ご希望やご意見をお聞きしている。重度化した場合はご家族の意向を踏まえ、協力病院と連携を取り、家族と相談のうえ、今後の方針、あり方について十分な話し合いを行うよう努めている。 | 事業所の方針として、看取りは行わないことを入居時に説明している。重度化に対してはデイサービスの特殊浴槽を借りて入浴対応をするなど、事業所でも可能な限り支援しているが、事業所での生活が困難な状況になった時には、家族、本人、関係者とで再度話し合いを行い、納得を得た上で住み替えができるよう支援している。 | |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時に備え、定期ミーティング時に事故防止や対応についての勉強会や訓練を行っている。ニアミス等の事例検討を行い、事故の再発防止に努めている。 | 心肺蘇生法、AED取扱い、感染症、転倒骨折などの事故対応とシミュレーションによる様々な訓練を実施している。ヒヤリハットで上がった事例についての検討も行き、事故や危険を未然に防止できるよう努めている。 | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 併設の特養と合同で昼夜を問わない災害の場面を想定した避難訓練を行っている。消防署の指導を受けたり、地域消防団の協力を得た訓練を職員全員が身につけるよう努めている。 | 年に2回、火災想定避難訓練を行っている。地域とは有事に備えて災害協定が結ばれており、協力体制は整っている。以前あった大規模停電の時の教訓を生かし、発電機や石油ストーブ、防寒着などの備えを万全にしている。 | 昨今の大規模自然災害の発生状況、被害状況を鑑みて、現在の事業所の災害対策について再検討することを望みたい。地震発生時の避難方法、対応方法、更に地域の避難所となることも想定して避難者の受け入れ方法などについても、話し合いや訓練を行うことを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者個々の人格の尊重に配慮した対応に心がけている。個人情報やプライバシーを損ねないような言葉かけを行うよう努めている。 | 会議中の声や個人情報の記録の記載などにも配慮し、利用者のプライバシーを守ることに努めている。入浴介助の際は、必要な援助以外は浴室から出て見守りのみを行っている。生活の中での仕事を利用者に担ってもらっていることに対し、いつも「ありがとう」の気持ちを忘れず伝えている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりにあったコミュニケーションの取り方に配慮し、ご本人が自分の思いなどを表現したり、意思決定できるように働きかけや環境づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の生活ペースを把握したうえで、個々の生活ペースを大切にして、ご本人の希望にそった一日の生活を過ごせるよう支援に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 日常生活の中で、その方が希望する身だしなみや化粧、理美容院の利用などを把握して、その方にあった支援をするように努めている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者の嗜好に合わせ食事を提供。スーパーや地元野菜直売所で食材を調達し、献立を考えたり、盛り付けや片付けなど各自の役割を決め食事作りに参加している。また、外食や食事会などを実施し食事を楽しめるよう支援している。 | 併設の特別養護老人ホームの管理栄養士が立てた献立を基に、時にはアレンジしたり、利用者の希望を取り入れたりしながら調理している。また、月に2回程度、好みの食事を選べる選択食も取り入れている。おすそ分けや直売所で購入した野菜を使って漬物を作るなど、食事が楽しくなるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の利用者の状態に応じた食べやすい食事形態になるように心がけている。食事摂取量の低下防止、栄養バランスを考えた食事になるような支援に努めている。水分補給は10時、15時に利用者の好きな飲み物を選んでもらい、確実に補給できるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々の利用者の状態に合わせて、職員の声掛けにより、食後の歯磨き、洗浄液による口腔内の清潔に努めている。夜間は義歯の洗浄消毒を行い疾病予防に努めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の利用者の状態や生活リズムにあった排泄パターンを把握して、それぞれに応じた支援を行うように努めている。 | 排泄の自立した方がほとんどで、おむつも使用していない。個々の排泄パターンをしっかりと把握しているため、特にチェックは行っていないが、常に自立に向けて最善な方法を考えながら本人本位に支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりの排泄状態の把握に努め、職員全員で情報共有している。便秘の状態が疑われる場合は食事内容、水分摂取量についてや運動への働きかけなどの工夫に努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々の体調やご希望に合わせた入浴ができるように努めている。安心して入浴ができるよう、職員と一緒に浴室に入るなどの支援を行っている。 | 入浴は1日おきぐらいの頻度で支援しており、時間も午後3時過ぎからと、より家庭に近い形での支援になるようにしている。事業所の浴槽での対応が難しい時は、デイサービスの特殊浴槽を借りて実施したこともある。必要な介助以外は見守りのみで対応してプライベートの時間を持ってもらい、また、入浴剤や季節の変わり湯で楽しい入浴となるよう工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの体調や行動、表情を観察し、把握したうえで、ゆっくりと一日を過ごし、休息・睡眠がとれるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ご利用者の薬の処方箋は職員が内容を把握して、服薬時は薬を直接手渡しして、服薬できたか否かの確認を行ったうえで、状態を観察している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご利用者の方が可能な仕事や趣味を把握し、書道、手芸、折り紙、軽作業などで気分転換を図っている。仕事をお願いする際は感謝の気持ちをお伝えするようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 定期的に近隣の喫茶店に出かけ、食べたい物を楽しみ、また、日帰り足湯温泉などに出かけるなど、外出する楽しみを支援している。 | 天気の良い日は事業所前の神社まで散歩してお参りをしている。季節の外出行事のほか、月に1回は近所の喫茶店に出掛けて食事をしており、毎週野菜を買うため直売所に出掛けたりしている。個別の外出では、きょうだいの面会や墓参りなど、家族の協力を得ながら、支援を行っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族より現金をお預かりして、事業所で管理している。外出時等での買い物代金などはご自身で支払っていただけるような支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族には定期的に「家族通信」を発行し、友人の方には写真入り葉書等で近況などを書いて頂いたり、手紙のやり取りができるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じた飾り付けを行い、季節の変化がわかるような工夫を行っている。室温等をこまめに確認して、ご利用者が居心地良く、快適に過ごせるような工夫を行っている。 | リビングには利用者全員分のソファや椅子が並び、テレビが設置されているため、日中はリビングで過ごす方が多く、くつろげる空間となっている。窓からすぐに神社が見えるので、毎日、手を合わせる利用者もいる。皆で作った季節の飾り物や利用者の活けた生け花、習字などが飾られ室内を彩っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ご利用者がお互い気軽に話ができるような環境、スペース作りを心がけ、ダイニングテーブルに行事等の写真を貼り、話題作りにつながるような工夫を行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室にはそれぞれの方が馴染みの物や写真などを置いていただき、好みの物を活かした空間で、居心地が良く、安心して過ごせるような工夫を行っている。 | 居室の大きな窓からベランダに出られるため、開放感があり採光も抜群である。それぞれに思い入れのある馴染みの物を持ち込み居心地の良い空間となっている。居室の中から鍵をかけることができ、利用者の安心感につながっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの状態を把握し、ご自身の出来ることを活かし、自立し、安心・安全な生活が送れるよう工夫に努めている。 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |